

I I S Sワークショップ

現実世界における意思決定とディベート

日時：2014年8月7日（木）15:00～16:30

場所：神戸大学六甲台第1キャンパス国際協力研究科1階大会議室

<http://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/rokkodai-dai1.html>

講演：低線量放射線被ばくの健康影響をめぐる意思決定とディベート

講演者：安井省侍郎氏

(厚生労働省安全衛生部電離放射線労働者健康対策室長補佐)

大学教育において、教育ディベートの手法を取り入れる試みが徐々に広がっています。

複眼的・批判的思考能力や情報収集・整理能力を向上させるために有意義な手法だと考えられますが、ディベート形式による議論は現実世界における意思決定においてどのような役割を果たしうるのでしょうか？本ワークショップでは、この点について考えてみたいと思います。

具体的には2011年11月～12月にかけて行われた政府「低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ」の議論内容の分析から、公衆による集合的選択における合理的意思決定の際にディベートが果たしうる役割が検討されます。

どなたでもご自由にご参加下さい（講演者紹介、参考文献等は裏面参照）。

お問い合わせ等は下記コーディネーターまでお願いします。

主催：神戸大学社会科学系教育研究府 (<http://iiss.kobe-u.ac.jp/>)

後援：神戸大学シチュエーションナルトレーニング・プログラム

日本ディベート協会（JDA）関西支部

コーディネーター：角松 生史（神戸大学大学院法学研究科）

kado@kobe-u.ac.jp

<講演者（安井省侍郎氏）紹介>

神戸大学卒（1992年，工学士）

ハーバード大学公衆衛生学大学院修了（2002年，MS in Environmental Health）

東京工業大学大学院社会理工学研究科博士後期課程修了（2009年，博士（理学））

専門分野：労働衛生工学、有害因子ばく露分析、数理的手法による意思決定分析

現職：厚生労働省安全衛生部電離放射線労働者健康対策室長補佐

神戸大学在学中から英語研究会（ESS）で英語でのディベートを始め、東西対抗大学ディベート大会（East-West Debate Contest）準優勝など各種ディベート大会で入賞。学生を主体とする英語ディベート連盟である全日本英語討論協会（NAFA）の理事を務めた（1991年～1998年）後、ディベートの普及のための学術・公益団体である日本ディベート協会（JDA）の理事を務めていた（1997年～2010年）。

ディベートに関する著書として、

安井省侍郎著、ディベートフォーラム出版会監修『初心者のためのディベート Q&A』

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00HGPQLLO/>

講演者 URL：<http://www.ne.jp/asahi/ocean/syasui/>

<参考文献等>

Shojiro Yasui (2013), An analysis of the argument over the health effects of low-dose radiation exposure caused by the accident at the Fukushima Daiichi APP in Japan, Journal of Risk Research, 16:8, 937-944

URL：<http://dx.doi.org/10.1080/13669877.2013.788061>

低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループ

URL：http://www.cas.go.jp/jp/genpatsujiko/info/news_111110.html